



善惡種時

細心



泉市販

永年



善惡種蔣金の生木

昔漢武帝時越王勾踐吳王夫差
 と戦ひしうち負て物れとるの吳小
 若むの十年年その居た地
 その間艱難辛若と
 越小歸て兵と
 犯し吳と服て
 夫差と討たて
 きて會稽の恥と雪す
 期て范蠡の功を名とけり身
 退死陶朱公と号し他国へ去りしに
 北地年忠臣の種を前由の末をく大富
 貴の人とするの二心二意及びとを滅ぶ若根



功徳の
 徳の
 の心
 さる
 かく
 の

此書の何人の作るをあらせよ

言々句句皆
 金王の教戒
 る

初学の
 人の心をこれを
 世ふをかくせんを
 直に捧み上せりて
 一冊とわきまを奉る



文庫

凡世鬼に生れ
病を余り受て
痛身を氣を苦し
あ世で殺身が世
三千人の牙を
世の男を死に

世を抜くか
唯も世の
道と云ふ
世を抜くか

一番の牙を
世の精を
大賊の首を
多くの人を
金銀を
是が因果の

貪る世を
世を抜くか
世の精を
神道は

万代不易の徳
今世の徳
と作業の善悪
は福門とありて
物事律儀なる
願ふ神也とあり

皆人徳也者
善世の徳
後世の徳
徳を語つじぬ
は何事にも
神也の加護

幸福長令を得
種善なる人
家身の上も
過去も来世も
去年の徳
と耕作の徳

子孫の福徳
因果の徳
徳にちて
二世の徳
今年も
来世も

遅速とありとも
毛筋も遠くを抜く
純多の人皆貪り
利はば人も多き者
富多ては世に多き者
我儘力も鈍りや

善悪因果の初め
利はば富多の成る
純多人も富多あり
貪多ては世に多き者
つれも世に多き者
権威つゝも多き者

富貴も大小あり
又多枝の大小も
善悪もその多き者
おまて因果の初め
結と心得るも
富貴の数多し

純大小のあり
非道も大小あり
善悪もその多き者
小因果とあり
心も一粒の種も
小の種も多し

報^{むく}の音^く意^{けん}の浪^{なみ}色^{いろ}
 多^{おほ}く事^{こと}し得^と事^{こと}え
 終^{つひ}改^かの足^{あし}一^{いつ}中^{ちゆう}え
 小^{せう}鳥^{てう}と^とも捨^{すて}積^つめ
 若^わ芽^めさ^さう^うい^いち^ちて
 仍^かる^る僧^{そう}を^を取^とり^りて

作^さる^る根^{こん}の^の少^{すこ}く^くも
 おも^おも^もく^く人^{にん}を^を要^{えい}心^{しん}
 ね^ねじ^じと^と飛^とび^びて^て
 雲^うの^の招^まを^を新^{しん}業^{ごう}に^に施^せ
 業^{ごう}ゆ^ゆる^るを^を解^げへ^へ
 大^{だい}衆^{しゆう}を^を科^かと^と知^ち

亦^{また}に^に罪^{ざい}の^のあ^あま^ませ
 水^{みづ}の^の滴^たの^のあ^あま^まふ
 小^{せう}飛^{てい}と^とも^もた^たえ^え終^{つひ}
 少^{すこ}く^くの^の音^{おん}も^も様^{よう}の^のて^ても
 積^つり^りて^ての^の音^{おん}の^のあ^あま^まふ
 後^{のち}世^{せい}と^とも^もの^の孫^{まご}と^とも^もの^のあ^あま^まふ

而^{しか}ん^んに^に終^{つひ}る^る時^{とき}も
 終^{つひ}る^る一^{いつ}重^{じゆう}の^のあ^あま^まふ
 終^{つひ}る^る比^ひ職^{しやく}業^{ごう}と^と終^{つひ}
 今^{いま}も^も此^{こゝ}果^{くわ}報^{ほう}得^{とく}中^{ちゆう}
 横^{よこ}無^むの^の缺^{けつ}も^もあ^あま^まふ
 お^おの^の世^{せい}も^も及^{およ}ぶ^ぶあ^あま^まふ

種時

善悪を根柢とし
 穀物取し例あり
 自然と生るるは
 亦亦や一歩の美の足
 軍報の信とあるを
 福徳を満るるは

種を播き海守り
 田畑を穀と為す
 種を一升ゆき
 行ぐ少し種
 況や種一多けし
 其種一と為す

興るる身思ふまよ
 多し其を周縁を
 皆そ富貴の業を
 昔の長者と思は
 盛りふつたを
 多し成るる名は

借物互にと思は
 金銀田畑
 堂塔宮室
 今其種乃其人
 富貴をたつる

如何^{いかに}やと^{いふ}斯^{ごと}くとも
神^{かみ}や佛^{ほとけ}（^{ふた}）^た有^あり納^{のり}の
於^おこ^こと^とあ^あら^らし^して^ても
長^{なが}者^{もの}の^し方^{かた}に^ま供^く養^{やう}あり
何^{なに}やと^{いふ}能^{あた}ら^らし^して^ても
家^{いへ}の^し為^{ため}の^し能^{あた}ら^らし^して^ても

善^よい^い人^{ひと}の^しあ
品^{しん}の^し永^{なが}く^くの^しあ
生^{なま}ま^まに^に施^しへ^へる^る
女^にが^が一^{いっ}燈^{とう}切^きれ^れる^る
必^{かな}ず^ず恩^{おん}を^を受^うけ^ける^る
慈^{あま}し^しい^い心^{こころ}に^に徳^{とく}を^を積^たむ^む

現^{いま}世^よの^し縁^{えん}起^{おこ}る^る
善^よい^い業^{ごう}の^し報^{ほう}は^はま^まに^に
縁^{えん}後^ごの^し病^{びやう}を^を受^うけ^ける^る
縁^{えん}不^ふ善^{ぜん}の^し甲^か此^{こゝ}に^に
勢^{いき}の^し強^かみ^みる^るは^はあ^あり
奉^{ほう}足^{そく}と^とを^を知^しる^るは^はあ^あり

我^{われ}の^し後^ごに^に善^よい^い業^{ごう}を^を積^たむ^む
成^{なり}に^に放^{はな}す^すの^しあ
助^{すけ}も^も善^よい^い業^{ごう}を^を積^たむ^む
善^よい^い業^{ごう}の^し報^{ほう}は^はま^まに^に
あ^あれ^れは^はあ^あり^りは^はあ^あり
佛^{ぶつ}の^し教^{きやう}を^をわ^わか^かる^るは^はあ^あり

蓮寺

多^{ひん}く^さの^ひ財^{ひん}の^た多^たく^たも
親^{おや}の^つ跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
金^{きん}銀^{ぎん}田^{でん}畑^{たは}の^たも
い^いの^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
残^{ざん}令^{れい}積^{せき}て^てゆ^ゆつ^つる^るも

お^おて^てあ^あぐ^ぐる^るは^はあ^あや
其^{その}の^の魂^{たま}あ^あ久^くれ^れい
親^{おや}の^つ跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
天^{あま}晴^はは^は出^いる^るも
そ^その^の身^みの^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
善^{ぜん}報^{ぱう}多^たく^た積^{せき}る^るも

神^{かみ}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
子^こ孫^{そん}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
世^よに^に常^{じょう}に^にあ^ある^るも
人^{ひと}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
人^{ひと}の^の眼^{まなこ}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
神^{かみ}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も

利^りの^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
司^し馬^ば温^{おん}公^{こう}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
子^こ孫^{そん}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
善^{ぜん}報^{ぱう}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
却^{かえ}て^て子^こ孫^{そん}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も
善^{ぜん}報^{ぱう}の^の跡^{あと}の^つ跡^{あと}も

種
時

乙

天道の徳は海
美目然ても実実でも
形は魂を骨骨でも
其心徳が天道の
善徳の多きを中系
為小行のまきうふ

愧く怒れて悔ま
虚やと人の形は
一貫やとて宝なり
余の身本は根を
未だ物幹の梢まで
神や佛の流るる

た衣の枝一本も
第一家内はひのほ
とまごもまごを教母
法ひのまをさるふ
親の孝ふ成るまじ
父母の病ふまを

因て其言の地ある
善をうつる心徳の
物記各は神のま
常に善言をまき人
これ論語の教なり
聖人れまらるる

人のあはれを春の
 世間を念す者
 世に非ざる者
 是れを門外
 家から敵鬼
 澤と不便とあり
 子孫の福を
 頼むる者
 其れを
 其れを
 其れを
 其れを

施一多くさるる
 子孫の福を
 場小府止た自
 福徳自らの花
 実成結ぶる者
 我れが果報
 種とて家業
 其れを
 其れを
 其れを
 其れを

金のあふ終

書肆

江戸芝神明前三島町 和泉屋市兵衛板

